

第6回須坂新校再編実施計画懇話会

日時：令和4年10月20日（木）

18時～19時30分

会場：須坂市シルキーホール 第1ホール

<次第>

1 開 会

2 挨拶

3 会議事項

- (1) 「第5回須坂新校再編実施計画懇話会」まとめ
- (2) アンケートの実施について
- (3) 学びのイメージに関する討議

4 その他

<次回の予定>

- (1) 第7回須坂新校再編実施計画懇話会
 - (日時) 令和4年11月中を予定
 - (会場) 須坂市生涯学習センターを予定
 - (内容) 新校の学びのイメージについて

5 閉 会

第5回 須坂新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和4年9月15日(木) 18時00分～19時30分		
場所	須坂市生涯学習センター 3階 ホール		
出席 (敬称略)	三木 正夫, 新井 隆司, 藤沢 敏和, 小林 雅彦, 春原 博, 神戸 佳代, 久保 正直, 浅井 洋子, 霜田 剛, 半田 志郎, 坪井 育美, 鈴木 勝, 島田 千春, 坪井 扶司夫, 新井 孝之, 中坪 成海, 二ノ宮 邦彦, 大宮 透, 畔上 大空雅, 内田 陽菜, 丹下 駿, 望月 梨々音, 宮尾 悟良, 山岸 暢, 羽山 功, 小林 英司 (以上26名)		
欠席 (敬称略)	なし	傍聴者	3名
事務局	須坂東高校	宮下 教頭(副事務局長), 嶋田 教諭, 酒井 教諭, 山岸 教諭, 高坂 教諭	
	須坂創成高校	峯村 教頭(事務局長), 小林 教諭, 柳澤 教諭, 山口 教諭, 辻 教諭	
	県教育委員会	山岸 主幹指導主事, 佐野 主任指導主事, 有坂 主任指導主事	
当日資料	次第, 第4回須坂新校再編実施計画懇話会まとめ(案), 講演会資料		

会議事項

- (1) 第4回須坂新校再編実施計画懇話会のまとめ(案)について
- (2) 講演「これからの高校を考える」
鳴門教育大学大学院学校教育研究科 教授 藤村 裕一 先生
- (3) 質疑応答

質疑応答時に構成員から出された質問・意見(要旨)(⇒藤村先生回答)

- 地域との協働学習について、先生方の異動があるので積み重ねができない。
- 文科省のルールに縛られてできないことが多い。どこまで自由度をもってやれるのか。
- 先生方が教え方を学んでこないと聞いているが、どうか。
⇒経験や勤による属人知となっていることは良くない。皆で知恵を共有し、すべての先生が同じようにできるという集合知にする必要がある。文科省のルールについては、本当はできるのに、現場ができないと勘違いしていることがある。日本では授業設計論などやっていない大学が多かったが、すべての教員養成系の大学で授業設計論や教育改革の授業を義務付けることになった。
- 統合によって浮いた経費を学校改革に使う、という話になるほどと思った。
- 参加型の授業、生徒主体の授業をやって行く上で ICT ももちろん重要だが、例えば15人で1人の教員でやるのと、30人でやるのと、大きく違うと思う。そういった教員の数であるとか、人の数について先生が関わられた事例ではどのようにしているのか。
⇒今、私はインターネット大学院を担当している。全国の先生が動画教材と各種教材を組み合わせで勤務時間外に無理なく学んでいる。静岡県では学費の1/2の補助を出し、学び直しを奨励している。教員定数のことについては教員の質保証が大事だと感じている。子どもの数が減ってきているので、今の教員の数を活かしつつ行けば、自動的に定員減できるはず。その時に必要なのが再研修。教員支援システムを、今、全力で開発して、集合知を活かす方策も考えている。

その他

【次回】

日時：令和4年10月の実施を予定
会場：須坂市生涯学習センター を予定
内容：学びのイメージに関する意見交換

須坂新校 再編実施計画に係る学校像について（これまでに出示された意見）

	在り方・方向性	協議会からの意見・提案	再編・整備計画【二次】	懇話会での意見	両校からの意見
育てる生徒像		<ul style="list-style-type: none"> ○ 高い志を持ち、自ら自分の進路を切り拓いていく生徒 ○ 地域の良さを知って、地域の活性化に貢献できる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域課題と向き合い、納得解を導き出す力や論理的に分析・思考する力、新しい価値を発想・創造する力を持つ生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集団適応、コミュニケーション能力が高い生徒。 ○ 自分で考えて自分で動ける生徒（主体性、自律性、自主性） ○ 自分の未来を自ら形成する人間力を持つ生徒 ○ 自ら意思決定して行動できる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的に学習に取り組み、実社会の課題と向き合い、未来を創造する力をもつ生徒 ○ 予測困難な社会を生き抜くため、課題発見解決能力をもつ生徒 ○ 他者との協働・コミュニケーションを図り、未来を切り拓いていく力を持つ生徒 ○ 自らのキャリアをデザインできる生徒
目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな人が集まり様々な議論を展開し、創造的な新しい発想や価値を生み出す学校 ○ きめ細やかな進路、学びのコースがある「総合技術高校プラス普通科」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新しいタイプのコミュニティデザイン高校 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流授業や学校生活の中で異なった考え方の人々と交流し、新たな価値を生み出せる学校 ○ 多様な分野を知り、つなぎ、新たな価値を生み出せる、人やアイデアをつなぎ、新たな価値を生み出せる学校 ○ 主体的な経験ができる場面を数多く用意した学校（部活動・生徒会活動以外にも） ○ いろいろな人とつながる、いろいろなことを学ぶ、研究するのは楽しい、ということを味わえる高校。高校は生涯学習の出発点。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専門学科と普通科の連携や他者との協働から新たな価値を生み出し、未来を創造していく力を育む ○ 地域をフィールドとした探究的な学びを実践し、課題発見解決能力を育む ○ 学科・教科の横断や地域連携を取り入れた新しい学びをとらえて、キャリアをデザインする力を育む
学び・カリキュラム		<ul style="list-style-type: none"> ○ 今までの普通科の学習領域にとらわれない特色ある魅力的なカリキュラム ○ 実践的な就業体験をものづくり産業以外に拡大・充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合技術高校と新たな普通科（地域課題に着目した実践的な探究活動に取り組む学科）の特徴を活かし、ここの生徒の可能性と能力を引き出す新たな学びのシステムの構築 ○ 大学や地域との連携・協働や先端技術の活用により、地域を創造し続けるための新たな学びの創出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 週の1日は探究に使えるなど、まとまった時間の中で自分の興味を深掘できる時間を持つ。興味あることを思いきりできる、という環境は強み。 ○ 普通科の生徒が選択科目として他の専門学科の単位が取れるようにする。普通科でのデュアルシステム。 ○ IT、情報システム、プログラミングを学べる学科があるとよい。 ○ 地域課題を解決できる探究的な学びができる学科間連携。 ○ 専門科、普通科の枠を超え、選択が広がるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学科・教科の枠を超えた探究的な学び ○ 地域をフィールドとした探究活動 ○ ICTの活用とコース制による専門性の深化 ○ 学科間連携の充実
地域連携・シーム		<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元企業と深く結びつき、実学の部分を企業が担い、地元で育てたい生徒を地元が育てる ○ 地域（市町村）とパートナーシップ協定や連携協定を結ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元の企業や自治体との協働によるデュアルシステムを地域の人々が生涯にわたって学び、成長し続けるためのプラットフォームに発展させる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元の企業や自治体との連携が鍵。デュアルシステムなど、現在の須坂創成高校の取組を継承・発展していく ○ 商品開発やスマート農業など、地域の人と一緒に学ぶ。 ○ 地域の専門的知識を持った人が教えることもあってよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域をフィールドとした学びを推進するコンソーシアムの構築 ○ 地域連携コーディネーターの設置 ○ デュアルシステム、共同研究、共同開発等の実施
学びの環境・その他				<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校内にとどまらず色々なバックグラウンドを持つ人々と連携、交流することは非常に有意義。 ○ 多様な分野を知り、つなぎ、新たな価値を生み出せる、人やアイデアをつなぎ、新たな価値を生み出せる人材が育つ場所になるとよい。 ○ 専門性を活かして取り組める文化活動部（プログラミングや機械工学、起業、農業など）が充実することも、学校の魅力になる。 ○ 地域にこだわるよりも社会とのつながりを持つことが大切。学校外に活動を求める必要性を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域との協働による生涯学習の拠点